

中南米日系社会の現状に関する調査報告（要約）

座長 堀坂浩太郎

1 日系社会の規模

外務省が把握する日系人人口の数値は実態と異なるとの感触もあるが、日系人の定義が不明確であることもあり、実態を把握するのは困難。現地における調査実績も少ない。

2 日系人の世代分布

一世の比率はブラジルでも既に数%～2割。日系人の世代構成は概ね「二世～四世・五世」、中心世代は「二世～三世」。活動人口は二世→三世→四世にシフトしつつある。

3 日系諸団体

日系人口の多い国には統括団体が存在する。ブラジルでは活動分野毎、地域毎に統括団体があるが、必ずしも全国の団体を統轄する体制とはなっていない。

県人会は多くの国・地域に存在するが、活動休止や廃止のところもある。文化団体・スポーツ団体は、日系社会の規模が大きいほど活動が多彩。福祉団体のニーズが増えている。

4 日系社会の活動状況

代表者の世代は一世から二世に移りつつある。役員を中心世代は二世以降に完全に移行したところが多い。女性リーダーは少ない。ただし婦人会としての活動は散見される。

日系人の職業分布は多様化。農業従事者は、数の上で減少傾向にあり、製造業も比較的少ない。商業従事者が多く、専門職・事務職・公務員への進出もうかがえる。マスメディアによく登場する日系人が政界、官界、財界、芸能界、スポーツ界と多岐に亘ることからも、職業分布の多様化が窺える。

日系社会に関心を持たず、日系意識が薄い日系人が増加。他方で、「移住地の自治的な共同体と違って、都市部の日系団体には所属のメリットが少なく、日系人が日系社会から遠ざかるのは当然。したがって、日系団体離れと日系意識の低下はイコールではない」との見方もある。

外的要因により若手日系人が「日系」意識に気づくこともある。具体的な外的要因としては、ポップカルチャーや日本文化関連イベントへの参加、訪日、日本語教育など。

日系社会活性化のためには、非日系人の取り込み、若者参加の成功事例の共有、在外公館による支援（館員のイベント参加、施設拡充、表彰など）が重要。

5 日本語教育

日本語学校がない国は少なく、広範囲に、かなりの数の日本語学校が存在、図書館・図書室の存在もみられる。生徒には非日系人が多く、教員についても非日系人に大きく依存していることが明らか。

日本語教育支援としては、教員派遣のニーズが高い一方で、教科書送付の要請は比較的少ない。日本政府の教科書無償配布制度の活用、日本語弁論大会、インターネットの活用などのアイデアもある。

6 日系メディア

8 公館地域に日系人を対象とする日系メディアが存在するが、伝統的な媒体（新聞）はかつての勢いがなくなりつつある一方で、インターネットなど新しいメディアは十分に開発されていない。

7 日本との繋がり

- (1) 進出日本企業：企業と日系社会は、事項によって是々非々の関係であるケースが多く、企業によって日系社会に対する姿勢が異なる。
- (2) 地方自治体：周年事業等を契機とした知事の訪問や、姉妹都市・州県交流が行われているが、表敬訪問に留まり具体的な交流事業が行われていないケースもある。
- (3) 留学：日系人青年の日本留学ニーズは依然として高く、国費留学の他にも県費留学（特に移住者の多かった国）、JICA日系研修などへの関心が高い。地域全体で見れば少なくとも4分の3の県が県費留学生・県費研修生として日系人を受け入れている。
- (4) 訪日の傾向：過去5年の日系人の訪日は横ばいないし増加の傾向にあり、訪日世代の中心は二世・三世。就労の他、観光や留学など訪日目的の多様化が見て取れる。
- (5) 就労経験者の受けとめ：日本での就労経験についての帰国者の評価は個人によってまちまちである。いわゆる「デカセギ現象」として一様に捉えることはもはやできない。

8 問題・課題・アイデア

- (1) 中南米日系人の共通課題というものはなく、国・地域により政治的な問題、現地社会における地位、日系団体間の連携欠如などの問題が指摘される。日系社会から在外公館に対して、国籍・査証・戸籍など法制度上の要望・意見が多く出されている。
- (2) 日系人と日本との交流を活性化させるアイデアとしては以下のような提案があった。
 - ・日本祭り・周年事業の活用
 - ・国境を越えた日系社会の連携支援
 - ・情報発信力強化
 - ・訪日の機会を増やす（含むホームステイ、ワーキングホリデー）
 - ・日系企業などにおける日系人の能力を活かした積極的登用

9 おわりに

日系団体の規模・歴史など国毎の事情を踏まえた日系人政策の策定が重要。各公館からの以下のような意見にも配慮すべし。

- ・「日系人」の定義が不明。「日系何世か」という質問はさほど意味を持たなくなった。
- ・帰国日系人と日系社会の関係途絶。
- ・日本側が考える日系意識と、日系人が考える日系意識とは異なる。
- ・日系社会側の声を聴取すべし。
- ・パンアメリカン日系大会やスポーツ等の国境を越えた日系ネットワークの形成認識。

(了)